

平成 26 年 2 月 3 日(月)開催

## 「海外進出 O S H 情報交流会」 に関するアンケート結果まとめ

参加者数：66 名 アンケート回収数：65 通 回収率：98%

### ○参加者の属性（66 名の内訳）

・業種別

・事業場規模別

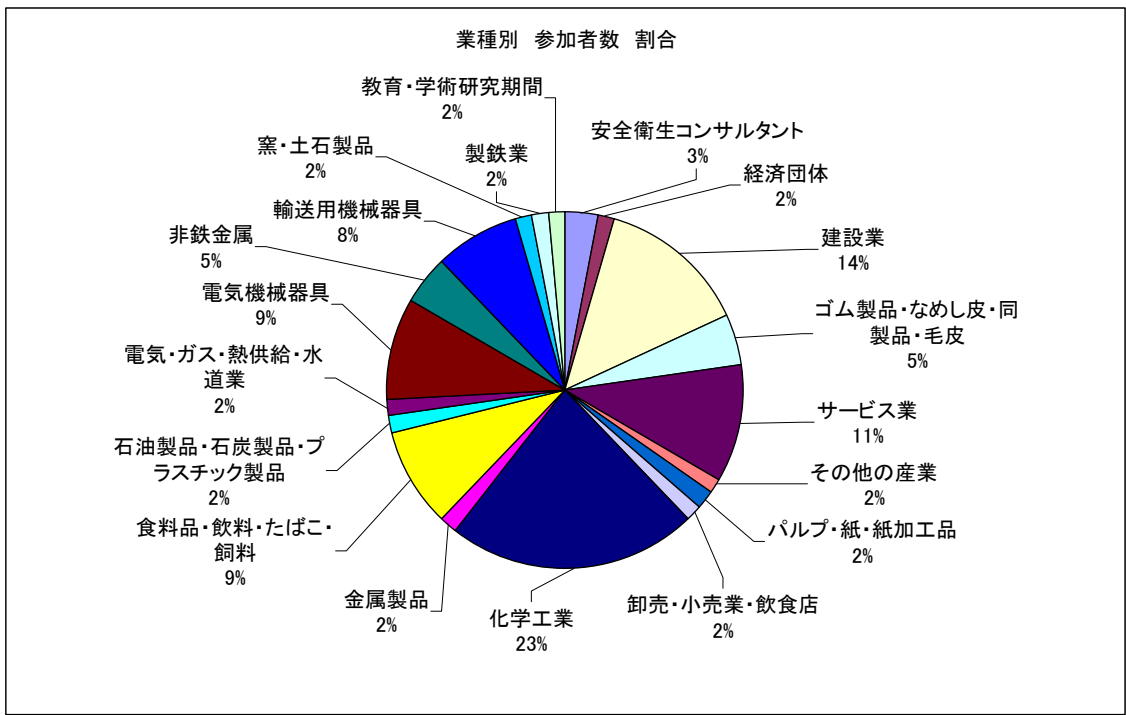
業種	人数
安全衛生コンサルタント	2
経済団体	1
建設業	9
ゴム製品・なめし皮・同製品・毛皮	3
サービス業	7
その他の産業	1
パルプ・紙・紙加工品	1
卸売・小売業・飲食店	1
化学工業	15
金属製品	1
食料品・飲料・たばこ・飼料	6
石油製品・石炭製品・プラスチック製品	1
電気・ガス・熱供給・水道業	1
電気機械器具	6
非鉄金属	3
輸送用機械器具	5
窯・土石製品	1
製鉄業	1
教育・学術研究期間	1

事業所 規模別	人数
a 50 人未満	2
b 50-99	2
c 100-299	3
d 300-	42
無回答	17

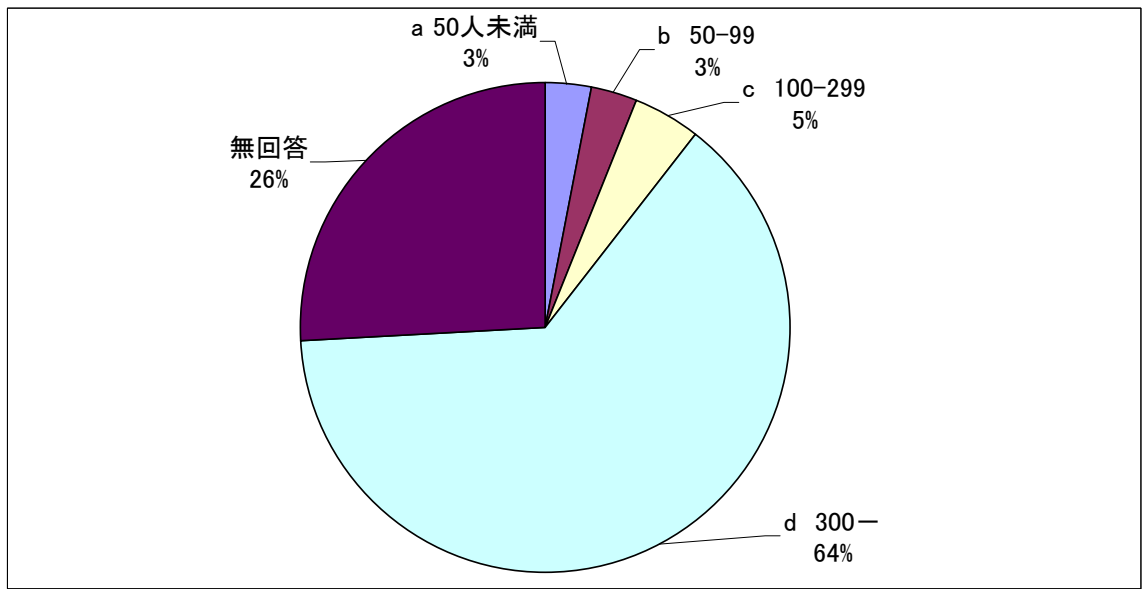
\*参加者の所属事業場業種別に分類すると化学工業（15 名）、建設業（9 名）、サービス業（7 名）、食料品・飲料・たばこ・飼料製造業（6 名）、電気機械器具製造業（6 名）、輸送用機械器具製造業（5 名）の順となっている。

\*参加者の所属事業場規模別に分類すると、42 名（64%）が労働者数 300 人以上規模の事業場に所属していると回答している。

業種別 参加者数割合 グラフ



事業場規模別 参加者割合 グラフ

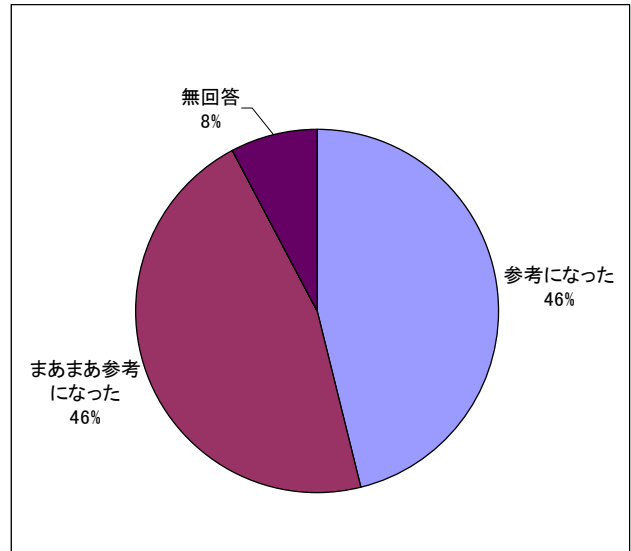


## アンケート回答集計

今回（本年2月3日交流会について）

質問1、本交流会についてご意見をお聞かせください。

	回答数
参考になった	30
まあまあ参考になった	30
あまり参考にならなかった	0
参考にならなかった	0
無回答	5



\*60名（92%）の参加者が今回の交流会を、参考となった旨、回答した。（「参考になった」（30人）、「まあまあ参考になった」（30人））

質問2、各講師の説明やその他ディスカッション・質疑応答で、ご興味をもった点がありましたらお聞かせください。

### 1. 旭硝子、高岡様

：（説明事項） グループの労働安全衛生基本方針、海外に生産拠点を持つための留意点である、安全管理の違い（例：日本とアジア）、安全活動レベルアップのための順序、安全は投資であること、安全衛生活動の海外展開の際の危険体感研修、RA/OHSMS、安全キーパーソン教育、グローバルコミュニケーションといった取り組みなど

- 国ごとの特徴をつかんだ安全管理・教育に非常に興味を惹かれました
- ほめる大切さに共感しました
- アジアメインの講話だけでなく欧米についても聞きたかった
- 欧米での OHSMS 管理問題点
- いきなり OHSMS は難しいということを思い知り確認できた
- 安全衛生基本方針で日本的要素が海外で受け入れられるのか疑問でしたが、考え方がわかりました
- グローバルな対応についてよくわかりました
- アジアに限られてしまった
- 各国文化・風土の違い
- 色々なレベルの研修シンポジウムの実施

- 休業日数ではなくケガの大小で災害レベルを分類している点、指差呼称に抵抗がある国ない国がある点、世界中どこでも国際安全規格を整備している点
- コーポレートの立場でのグローバル企業の安全に対する考え方が良く理解できた
- 安全活動レベルアップのための順序、安全衛生活動の海外展開
- 非常に進んでいるという印象、各国へ赴いての教育支援等はなかなかできることではないので、より深くお話を伺いたい
- コーポレートと各カンパニーの役割を明確にし、従業員の教育などを積極的に展開されている点、相当のご苦勞等があったと思いますが敬服します、同じメーカーとして見習う点が多かった
- 危険体感研修設備で対応訓練を実施されていること
- 研修体系
- アジアへの安全衛生活動の展開
- 海外グループ会社の参考になった、アジア・アメリカ・EUの違い
- 安全管理レベルを向上させるためには順序が必要という点
- AGC グループの海外安全活動内容がよくわかった、参考になりました
- 現地での研修やシンポジウム
- 日本とアジアの安全管理の違い、欧米子会社への方針展開
- 意外に死亡事故が多いと感じました
- レベルを向上していくためのステップを踏むこと、研修・教育の実施(特にキーパーソンの教育)
- 講演の中で海外の人たちは生まれも教育も習慣も日本人とは違い、指差しの形を嫌がる等を聞いて、指導のむずかしさを感じました、習慣の違いは修正できるのだろうか
- 地域によって休業災害、不休災害といった災害の定義が異なる点
- 国ごとの文化風土にあった安全意識向上策が必要となる点
- 日本とアジアの安全管理の違いは大変参考になりました
- 日本と他国で安全管理の考え方の違いに大きな差があり驚いた
- AGC グループの安全衛生研修制度
- 日本とアジアの安全管理の違いは大変参考になりました、安全は投資であるとの点、合併会社のパートナーに通用するのか
- 世界の地域・国により安全衛生文化が異なるが、工場内に安全活動が定着させられるか難しい問題であると感じています
- 微傷事故の定義、既往歴のある災害
- 安全は投資であるという点
- グローバル展開の方向性に変わりはない、安心しました
- 様々な国で事情が違っていることがわかり興味深かった
- 災害判別基準の内容
- 欧米との考え方(労災:不休休業)の違いは悩み多いところ、当社としても基準を考え直してみます
- リスのキャラクターはグローバルなものでしょうか、安全キーパーソン研修にも興味があります
- グループ目標設定、グローバル安全衛生シンポジウム
- アジア各国の詳細の特徴が聞けてよかった

## 2. 横浜ゴム、西様

：(説明事項) 海外工場への安全衛生展開のあり方進め方、その効果

～中国工場（注：杭州）への指導の実際～（安全支援活動計画、安全朝礼、安全衛生委員会・職場パトロール、体感教育・階層別教育、KY/RA/HH/一対一教育、公開作業観察、救出・避難訓練、安全管理体制の整備、3S、ルールの遵守、関係業者、奨励制度など）

- 人と人のつながりがある安全教育制度が数多く紹介されており大変参考になりました
- 中国の特性に同国内の地域性があるのでしょうか？
- 中国の一つのパターンとしてよい情報が得られたと思います
- 如何にコミュニケーションを通して時間をかけるかがポイントと知った
- 日本的な管理方法が展開できていることに感心しました、参考にしたいと思います
- 中国での飲コミュニケーション、良くわかりました
- 中国のみであったが他国も関心がある
- 個人重視の考え方
- 実際の取り組みについて紹介があり参考になった
- 安全マン活動
- 中国では OSHMS もやったが”やはり人”が大事という点、個人指導に重点を置いている点
- 個人レベルに落とし込んだ安全教育が参考となった、中国での経験が良く分かった
- 日本的な管理の中国への具体的展開法
- 工場における具体的な事例は大変参考になった、諸活動を定着させた際の苦労話や工夫した点をうかがってみたい
- 中国という日本人の慣習とはまったく違った文化を持つ従業員に対し、日本流のやり方でレベルアップを図っている点、感心しました
- 公開作業観察に興味をもった
- 徒弟制度
- 地道な教育の積み重ね
- 中国の指導例について参考になった
- 個人別の弱点把握・公開作業観察により作業標準の問題点を把握している
- 具体的な活動紹介でよかった、安全専念タイムの仕組みをぜひ取り入れたい
- 現地指導と日本研修のサイクル
- 1対1の対応が重要であること
- 安全マン教育について国内で確実にしたものを海外に持っていくという点、徹底したバックアップ(サポート体制)の充実
- 研修の費用負担はどのようになっているか、中国、日本どちらが負担しているか
- 日本のやり方を導入しました、うまくいきました、という内容なので、もう少しうまくいかないところで苦労したところを聞きたい
- 個人の安全意識に受け止め方が違うことはそのとおりだと思いました、個人指導もよいかと思います、公開作業観察は有効かと感じました
- 離職率が高い国でも教育は必要

- パートナー制度(兄弟制度)
- 公開安全作業、兄弟制度は参考になりました
- 中国人に教育をするにあたって(コミュニケーションが大切)上から目線ではダメという点
- 海外への安全衛生定着化だけではなく、国内での安全衛生活動の見直しにも役にたつと思った
- 個人の教育から、擬似体験ができる体感訓練等の内容がよくわかりました、公開作業観察に管理者への教育が含まれていることも初めて知りました
- 安全衛生体制の整備
- 日本の管理手法の浸透定着の実績は参考になった
- KYTなど個人教育の必要性を感じます、1対1安全教育個人ファイルに関心があります
- 日本の安全教育の手法を大切にすることがわかった
- 新人に2~3年の兄貴分をつける意義、関係業者までKYT参加する点、個人の弱点の見える化(レーダーチャート)は問題がおきないか
- コミュニケーション重視という点
- 中国での具体的な取り組みの紹介がありよかった
- 安全マン活動のレーダーチャートの内容
- 工場を取り上げた話だったが、本社とか間接部門の安全を高めることも向上につながるように思いました
- 各論とも参考になりました
- 安全マン活動、最終的に人であると感じました

### 3. 労働安全衛生総合研究所、福澤様 (講師兼モデレーター)

：(説明事項) 働き方と安全衛生 (ASEANの多様性、著しい変化の波、2015年のASEAN経済統合、日本の常識の通用性、トップダウンとボトムアップ、提言(安全衛生を日本型労務管理や人材育成とパッケージで「輸出」→日本の管理手法をASEAN標準に))

- 日本の安全教育を世界のスタンダードにできたら、非常に良いと思えた
- 資格制はうまく使えると良さそうです、良い例ができれば紹介いただきたい
- ASEANの情報の一つとして参考になった
- 日本的労務管理の展開のやり方について更に聴きたいと思いました
- まとめご苦労様でした
- 日本型システムの強みという点
- フィリピン・マレーシアの5S
- 日本で安全が確保できない企業は海外でも安全に操業できない
- 安全管理の違い、日本の常識は通用しない具体例
- 当社もASEAN地域を中心に海外展開しているので、現状や今後の動向を踏まえた安全管理の理想的なあり方が何かという点について参考になった
- 免許は買える、これに代表されるように東南アジア諸国での事業展開には、沢山の問題が出てきそうです
- フィリピン5S、ASEAN-OSHNET
- 日本で安全衛生管理をきちんと構築し、それを海外へ移転するという点
- 日本でやっている活動を現地でやればよい、管理指導も参考になりました

- ASEAN 経済統合による人の移動の自由化は、安全管理が複雑になりそう
- ボトムアップの重要性については、認識されるのがむずかしい
- 法制度と実態とのギャップ
- 法規制が違っているので、作業指導についても影響はあるのだろうかと思った
- 法制度と実態のギャップが大
- 日本型の安全衛生活動の導入
- ASEANにたくさんの国や思想があり、日本の考えの浸透に大変だと感じた
- 日本の管理手法を ASEAN 基準にという点
- 安全衛生の統一、資格制度の統一など日本的管理が重要で必要
- 人の育成方法
- アメリカの例はどうか、安全計画表、宗教対応 イスラム教 就業時間中の祈りの時間、機械設備に頼らざるを得ないという視点、インドはどこに属するのか
- ASEAN の事情が分かってよかった
- 法制度と実態のギャップの事例
- 日本流の安全衛生を輸出していくという提案に対して賛同します
- 法制度との実態ギャップ

#### 4. ディスカッション（上記1～3回答とも関係）

- バランスが大切だと感じた、教育、キャリアアップ、金銭、コミュニケーション
- 論点が多すぎるのでは？もう少しタイムマネジメントを工夫すべきでないか
- 参考になりました
- 国別のポイントがあると良い
- 5S、KY の資格という点
- 掘り下げた内容で興味深かった
- 欧米が日本と大きく安全に関しての考えが異なっている点
- 色々な話が聞けてよかった
- 世界の ISO 化の動きと日本の対応、ボトムアップとトップダウンの管理
- 日本側のサポートや教育のあり方等、当社としても検討すべき課題について意見をいただき有意義だった
- いくつかの論点ごとにディスカッションしたのはよかった、離職率の高さ、日本からのサポートなど抱えている問題が共通しており参考になった
- 海外進出の公的なサポートを中災防に望みます
- 詳しく説明いただき理解が深まった
- 欧州と日本のアプローチの違い
- 5S、KY等のボトムアップ施策の定着方法について
- 個々の国による災害判断になるようであり、統計的には集計に違いがでるのではないと思う
- 有意義に聞かせていただきました
- 日本企業には現地企業より高いコンプライアンス対応が求められる
- 人材活用制度の改善に対してキャリアイメージを提示するという施策

- ISOに基づいた機械設備を作る(良い所は取り入れる)という点、EUは人の教育がなされていないという点
- 私はまだまだ労働安全管理について初心者なので非常に皆さんのおっしゃる内容が勉強になりました
- ほめること、キャリアアップという点
- 法規制と実際の運用のギャップ
- 論点テーマは関心が高い内容でした
- 誰も読まないマニュアルという点
- 欧米に対しての進め方が聞けてよかった
- 同じ痛みを持っている質問応答があつてよかった
- もし次回機会があれば、間接と直接の安全感度の違いについてもディスカッションできたらと思いました
- 定着率を上げる工夫は参考になりました

## 5. 質疑応答（上記1～4回答とも関係）

- 他社さんの意見も聞けてためになった
- 参考になりました
- 休業等の定義、日本側のサポート、KYとリスクアセスメントの海外での教育法
- 欧州での機械安全の考え方と日本式の安全管理の欧州での適用
- 日本の安全衛生規則ルールはどこまで守らせることができるか、という点
- 安全教育とキャリアアップのインセンティブ
- CSR、コンプライアンス(法規制)とのギャップ、マネジメントシステムの法制化、日本の良いところが崩れかかっているのではないか
- 正しい評価・判断・分配、すべてはこれに尽きると思いました
- もう少し掘り下げた内容の説明があつても良かったのではないか
- 基本方針を示し(欧州)後は彼らが独自に進めるという点

## 質問3、その他、ご意見・ご感想がございましたらご自由にお書きください。

（例：内容、開催時期、時間、場所、方法等）

- もっと他社さんと交流できたら良かった
- もう少し具体例が会場からもでるような工夫をお願いいたします、質問が特にありましたら、という問いかけは意見が言いづらいのではないかと思います
- 今後も継続して開催して頂きたいと思います、また、一方向の報告や発表だけでなく、会場内、参加者同士の交流なんかもあると良い、5,6人で小さな島を作って”深い”話し合いをした方が良い
- もっと質問させてほしかった
- 社内基準のグローバル展開について教えて頂きたいと存じます、終了後の交流の場で質問します
- 途中退出したが国別の事情など提供いただけるとよい
- 回数、規模をもっと増やして欲しい
- 欧米の話がもう少し聞きたかった
- 労働安全だけでなく保安防災の面の安全も取り上げて欲しい



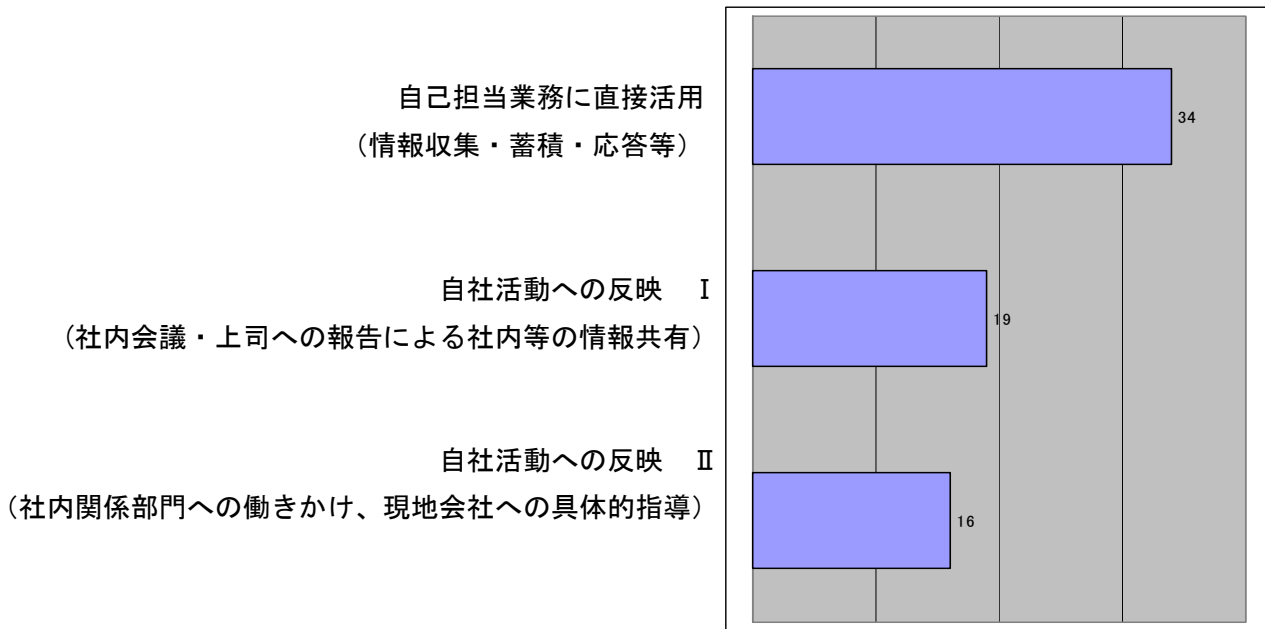
- OSHMS/ISO と日本式マネジメント(KY, ヒヤリハット)の調和の必要性、今後の具体的展開の問題が良く理解できました、世界的な ISO 化の動きの中でグローバル化せざるを得ない日本企業が、どのように安全衛生活動をやっていくのかという観点からのセミナー等の開催を希望します
- 内容としては良かったが、各講師の説明時間が少なくて残念だった、講師の一人でも時間をじっくり実施してもよいと思います
- 建設工事での安全対策・管理についての話が聞きたい
- 参考者同士で討論会(交流会)を開いてはいかがでしょうか(時間必要ですが)
- 時間が短い
- スクリーン資料が見つらなかった、もう少し大きいと良い
- 貴重な体験談を講師からいただき感謝いたします、強いて言えば、もう少し具体的な事例を聞きたかった、ただしそれらはパネルディスカッションで補足を出していたと解釈した
- 労働安全衛生にかかる各国法規制を知りたい
- 事前に資料があれば考えも整理できた
- 各講師のお話をもっとじっくりお聴きしたい
- 企業としての海外における労働災害に対するリスクをどう調査し、対処していくかを知りたい
- 教育支援のコスト負担(海外に安全指導に行くに足りるというオーソライズを得ないと出張費がでない)
- 国別に様々な会社から情報提供いただくとよい、問題についてさらに知りたい
- 次回もぜひ企画してほしい、金曜日にしてほしい
- 内容・時間、良いです、講師費用分の会費とってもよいのでは？
- 今回の開催場所は会社から近くてよかった、時間が合えば懇親会にも出たかった
- 内容からすると時間が不足気味であったと思う

## 今後の交流会の開催について

質問4、また、御社様として、このような交流会に出席していただいた場合、主として、どのように活用されますか。

	回答数
自己担当業務に直接活用 (情報収集・蓄積・応用等)	34
自社活動への反映 I (社内会議・上司への報告による社内等の情報共有)	19
自社活動への反映 II (社内関係部門への働きかけ、現地会社への具体的指導)	16
無回答	2

\*複数回答あり



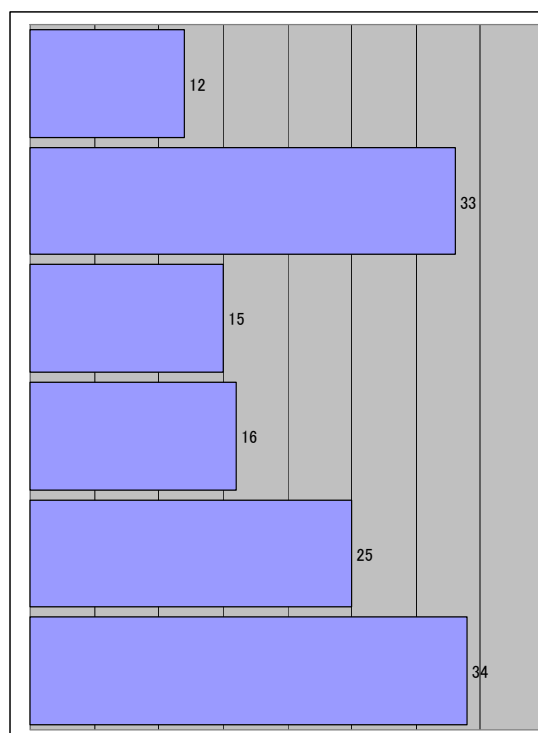
\*交流会参加をどのように活用するかについては、「情報収集等の自己担当業務に直接活用する」が34件と最も多かったが、社内での情報共有や関係部署等への働きかけ等の自社活動への反映もみられる。

質問5、御社は、今後、このような交流会で扱うことを希望するテーマとして、以下のどのようなものを希望されますか。

	回答数
①労働安全衛生管理体制の充実 (例)労働安全衛生計画の策定、労働安全衛生責任者等の選任	12
②労働安全衛生に係る人材育成・教育 (例)安全・衛生担当者の育成、リスクアセスメントのリーダー育成	33
③自主的な労働安全衛生の取組み (例)5S(整理、整頓、清潔、清掃、躰)、危険予知活動(KYT)	15
④労働安全衛生マネジメントシステムの取組み (例)その導入、運用	16
⑤現地労働者・海外派遣労働者の労働衛生管理 (例)健康教育、健康測定、健康管理、メンタルヘルス対策	25
⑥現地の労働安全衛生に係る情報の収集 (例)現地の関係法令の収集、改善事例	34
・その他：企業費カットで中災防から脱退してしまった。個人会員制度(安価等)を検討されたいかがか、(全国大会の参加費も高い)・海外での労災減少効果のあった施策	2

\*複数回答あり \*無回答：4

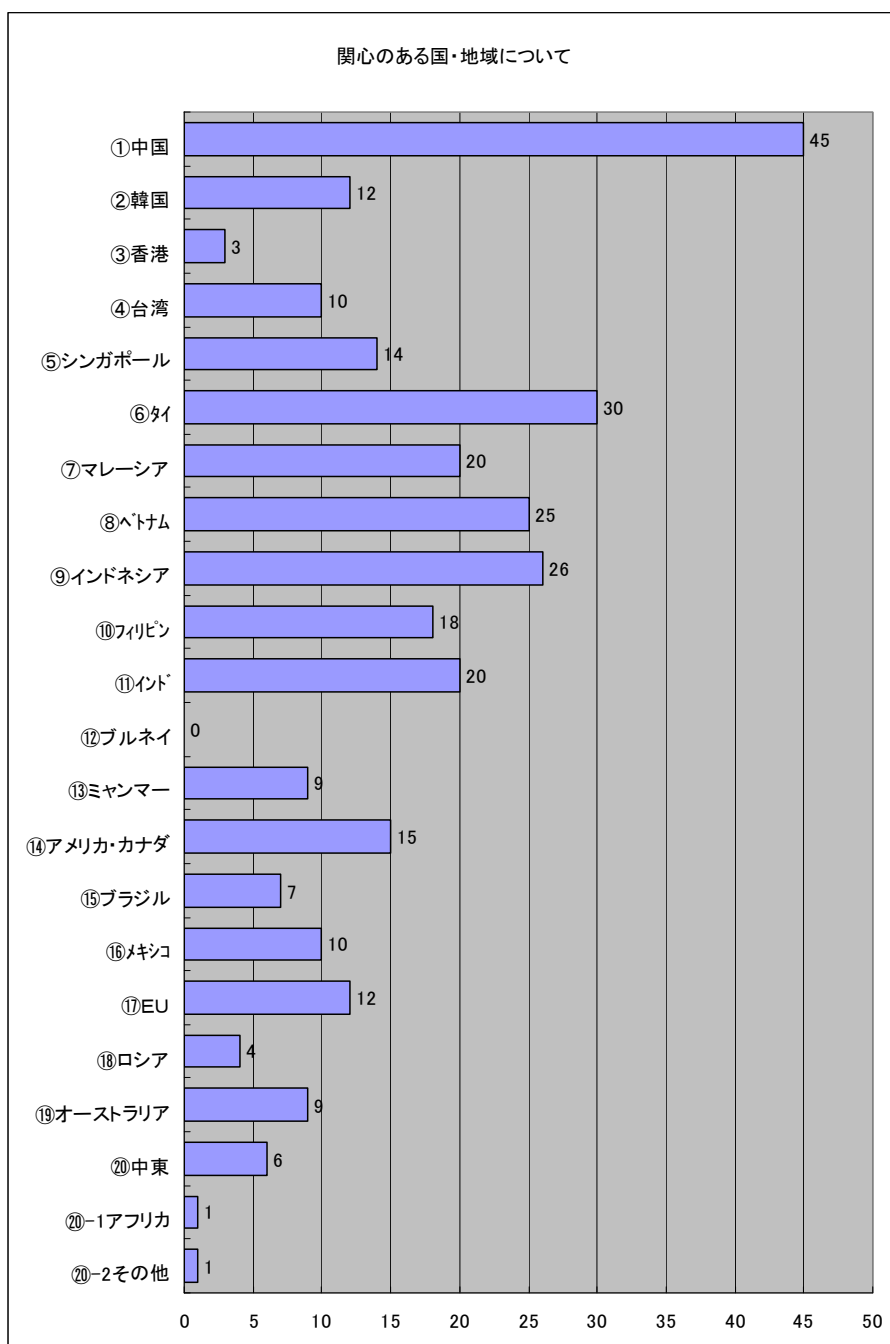
- ①労働安全衛生管理体制の充実
- ②労働安全衛生に係る人材育成・教育
- ③自主的な労働安全衛生の取組み
- ④労働安全衛生マネジメントシステムの取組み
- ⑤現地労働者・海外派遣労働者の労働衛生管理
- ⑥現地の労働安全衛生に係る情報の収集



\*希望するテーマとしては「現地の労働安全衛生に係る情報の収集」(34件)と「労働安全衛生に係る人材育成・教育」(33件)が多く、その次に「現地の労働者・海外派遣労働者の衛生管理」(25件)となっている。

質問6、また、御社様として、特に関心のある国・地域がありますか。

中国	45
韓国	12
香港	3
台湾	10
シンガポール	14
タイ	30
マレーシア	20
ベトナム	25
インドネシア	26
フィリピン	18
インド	20
ブルネイ	0
ミャンマー	9
アメリカ・カナダ	15
ブラジル	7
メキシコ	10
EU	12
ロシア	4
オーストラリア	4
中東	9
アフリカ	6
その他	1
無回答	4

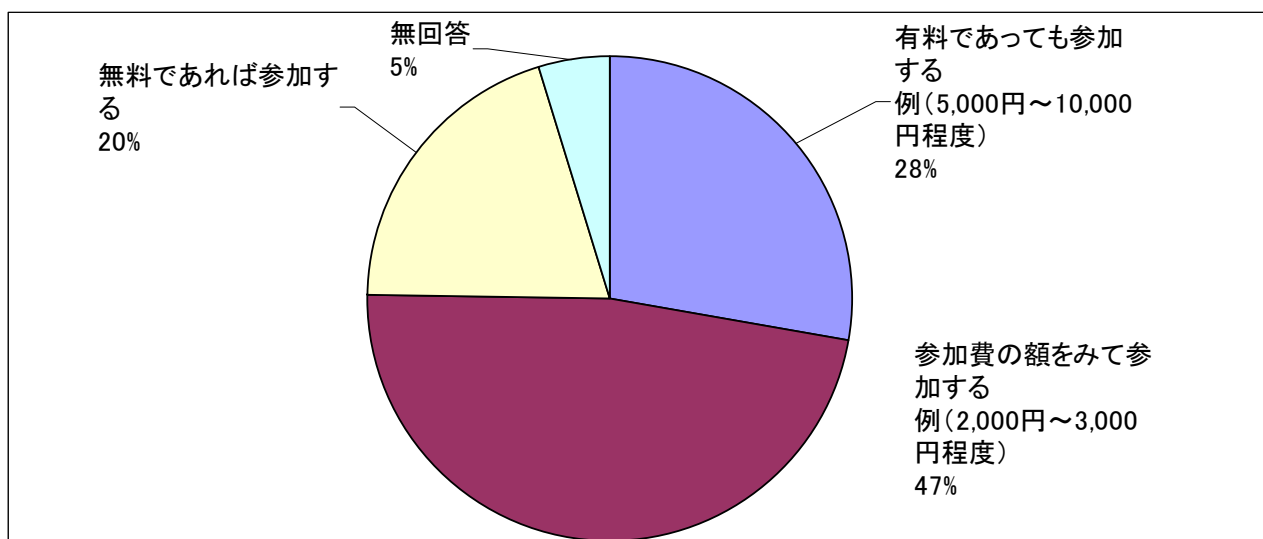


\*複数回答あり

\*関心のある国・地域については中国（45件）が最も多く、次いで、タイ（30件）、インドネシア（26件）、ベトナム（25件）、マレーシア（20件）、インド（20件）の順となっている。

質問7、また、御社様として、今後このような交流会を有料により開催した場合に参加されますか。

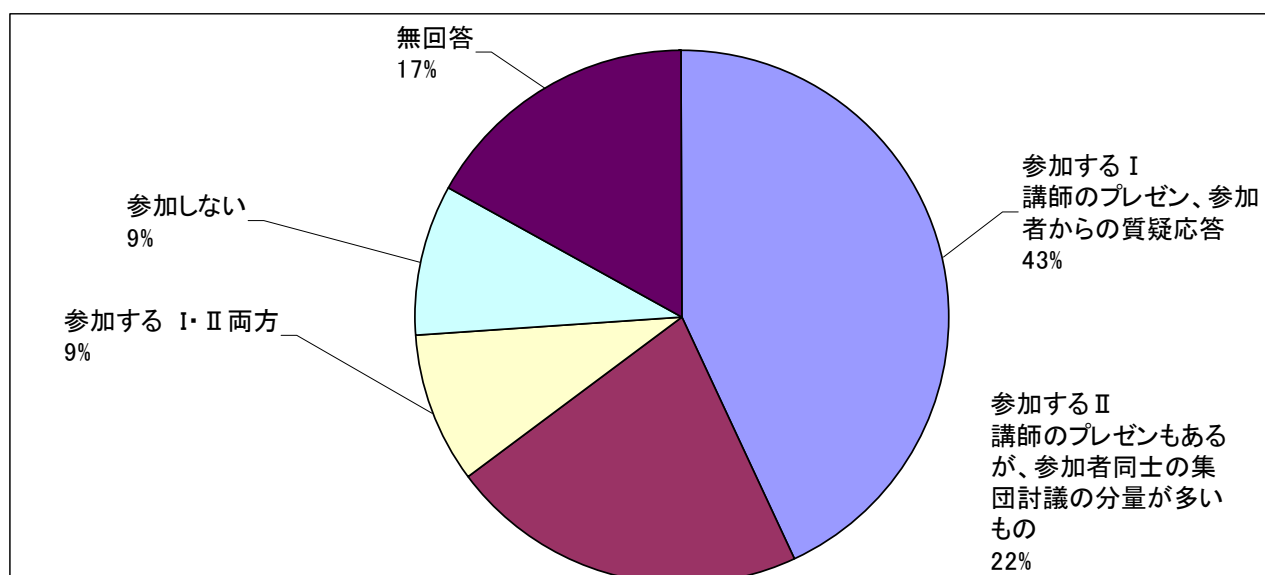
	回答数
有料であっても参加する 例（5,000円～10,000円程度）	18
参加費の額をみて参加する 例（2,000円～3,000円程度）	31
無料であれば参加する	13
無回答	3



\*49名（75%）が、このような交流会に、有料で参加する旨、回答した。（有料であっても参加18名、参加費の額をみて参加する31名）、無料なら参加するとしたのは13名だった。

質問8、また、御社様として、今後このような交流会とは「別に」参加人数が小規模な交流会（例：講師1人程度：プレゼンテーション・質疑応答・討議）を開催した場合、参加されますか。

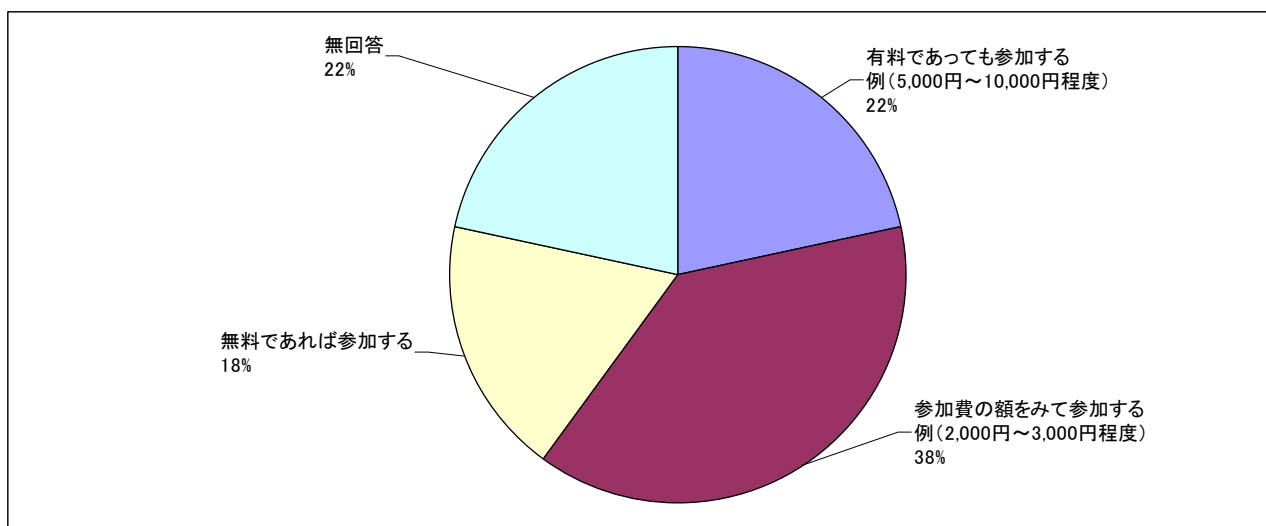
	回答数
参加する I 講師のプレゼン、参加者からの質疑応答	28
参加する II 講師のプレゼンもあるが、参加者同士の集団討議の分量が多いもの	14
参加する I・II両方	6
参加しない	6
無回答	11



\*今後小規模な交流会に「参加する」と48名が答えた。「講師のプレゼンと参加者からの質疑応答」の形式の選択が最も多く、28名（43%）だった。

質問9、また、御社様として、今後このような交流会を有料により開催した場合に参加されますか。

	回答数
有料であっても参加する 例（5,000円～10,000円程度）	14
参加費の額をみて参加する 例（2,000円～3,000円程度）	25
無料であれば参加する	12
無回答	14



\*39名（60%）が、このような交流会に有料で参加する旨、回答した。（有料であっても参加14名、参加費の額をみて参加する25名）、無料なら参加するとしたのは12名だった。

質問 10、その他、ご意見・ご感想がありましたら、ご記入願います。

- 2008 年まで実施されていた他国の法令紹介を再開してほしい
- 東海地区での開催を希望します、参加費もさることながら出張経費のしめつけも厳しく、こういった機会にぜひ出席したいが中々上の理解がとりにくい、近くで開催だと参加費が有料でも交渉しやすくなる
- もう少し時間に余裕がほしい
- 海外の安全衛生関係者のプレゼン(通訳付き)とディスカッションもあれば参考になるのではないのでしょうか、日本の安全衛生管理に対する外国人の見方を良く理解することができるため、また、も ISO 化に傾いていると認識しています、中災防等は是非日本的なマネジメントが ISO に取り入れられ、日本企業が海外で混乱することがないように、海外関係団体との交流の中で働きかけもあれば良いのではないのでしょうか
- 海外の安全衛生に関して先進的な企業の話が伺えて、大変参考になった
- 建設業向けに同様の交流会開催してほしい
- 本日は多くのご意見ありがとうございました
- ありがとうございました
- 地域を限定した取り組みも聞きたかった
- 日本の取り組みができていないのに、海外に行くのはどうかとあったが、まずは日本の取り組みをしっかりと確立することが大切、日本の OSHMS を海外へ導入することがよいことがわかった
- 今後は海外に向けての会社設立が考えられる中で参考にしておきたいと思いました
- 個人の安全意識の向上が、最近の災害原因(転倒、転落、階段から)から必要と思われるか、自立的な安全意識向上を図るために有効な施策は？
- 普通の安全衛生活動にも役に立つ内容で、今後も参加していきたいと思いました
- 今後も中災防にはご指導願います
- 有意義な講習会でした、講師の PPT を送付いただきたい
- 自社でも海外の安全システムを根付かせるのに苦勞していたので、非常に有益だった、今後は欧米など地域別に分けて開催していただけるとよい
- 各国の OSH の法制度、安全衛生の情報提供があるとよい
- 大変参考になった
- 今後もこうした交流会をお願いします

(了)